へ 13
3698
5

小三馬作

嘉永四年辛亥

上

小三馬作

豊国画

門 へ13
3698
巻 5

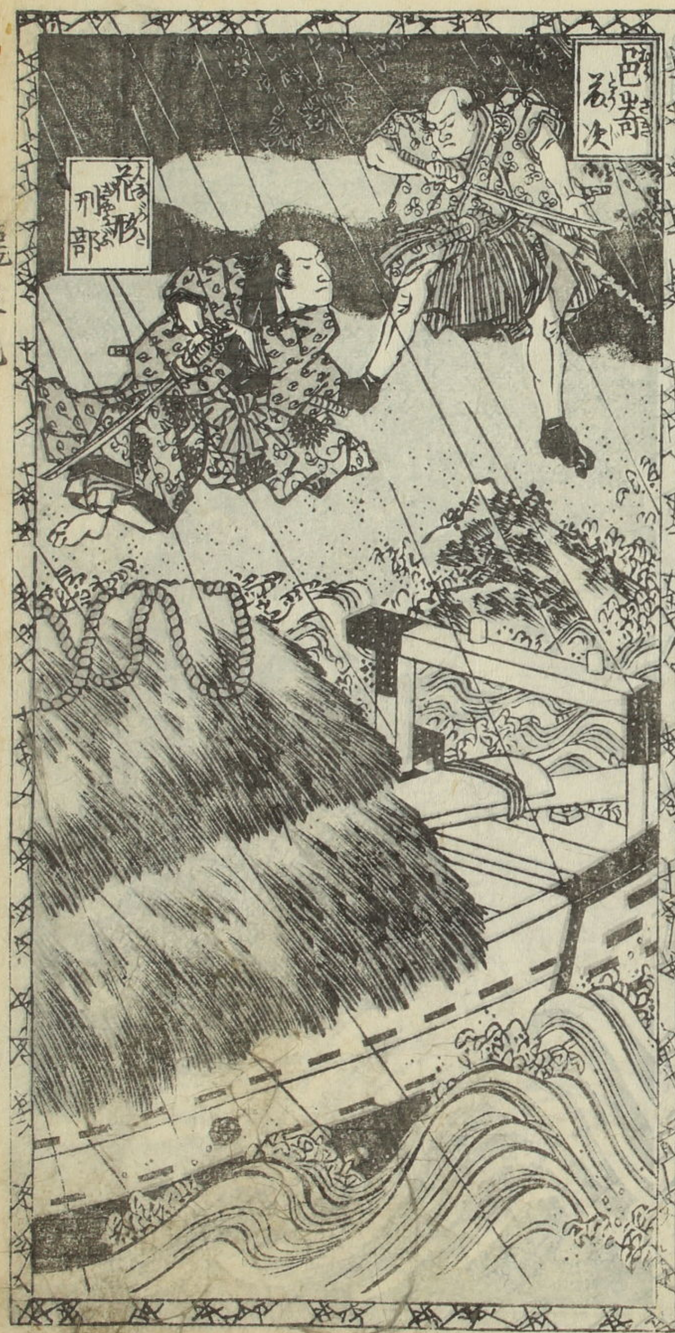
龍王太郎英雄譚

第九編
上之巻

式亭小三馬作
一陽齋豊國画

嘉永四年春
通油街
松林堂上梓

孔子は陽虎に似てさるれ渡唐の天神は関羽とまがへぬやうに梅の花を推乃さ
まの水仙は冬葱杜若は菖蒲自もその俤は父に似て非るは熟芸のつくるさとる
俳優の魁反古庵が名語るされば續ふめく各種王蜀黍は鰹と欺き干大根は
人参ふまがひ酸将酒は珊瑚の如く棒の色附は紫檀に似たり茄子漬の干るは熊
膽ふまがひの玳瑁まがひの馬爪八丈縞の上布織小倉野縞の麻子餅小菊に小
半紙銀は鉛唐茄子は赤貝鰻は鱓魚とまがひのそば一々かそへあげるべ人
世も倹約に似る吝嗇謙孫は縞ふ虚辞退通人は似る假在行賢人は
まがの尊大的豪傑は似る放逸的豪邁はあぶ放蕩家隠君子は頼惰直實は
ちくさら者富家はもと山師の店飾活ける師は草澤医生能筆は寺ちく狂
学者まがひの戯作者が假傳奇合巻も書林縞の稗史賈客は一舊知已の
松林堂殊更彫摺麁しく上手はもてそ呉竹のその浮世繪は花と添る画工る
まがひの正銘正統生地とはせざるの其酒癖は父は似て非る戯作の性業も
吁吾ら拙くされど許さる書肆が需は既は机案は向嶋の隠居の名言想ひ
恰似て非る成の秋より發賈はそぐ催促は辛丑年の倉卒作向不見る筆



癖りて相もかはらず編るふこそ

嘉永四年辛丑春發市

本町庵小三馬戯題

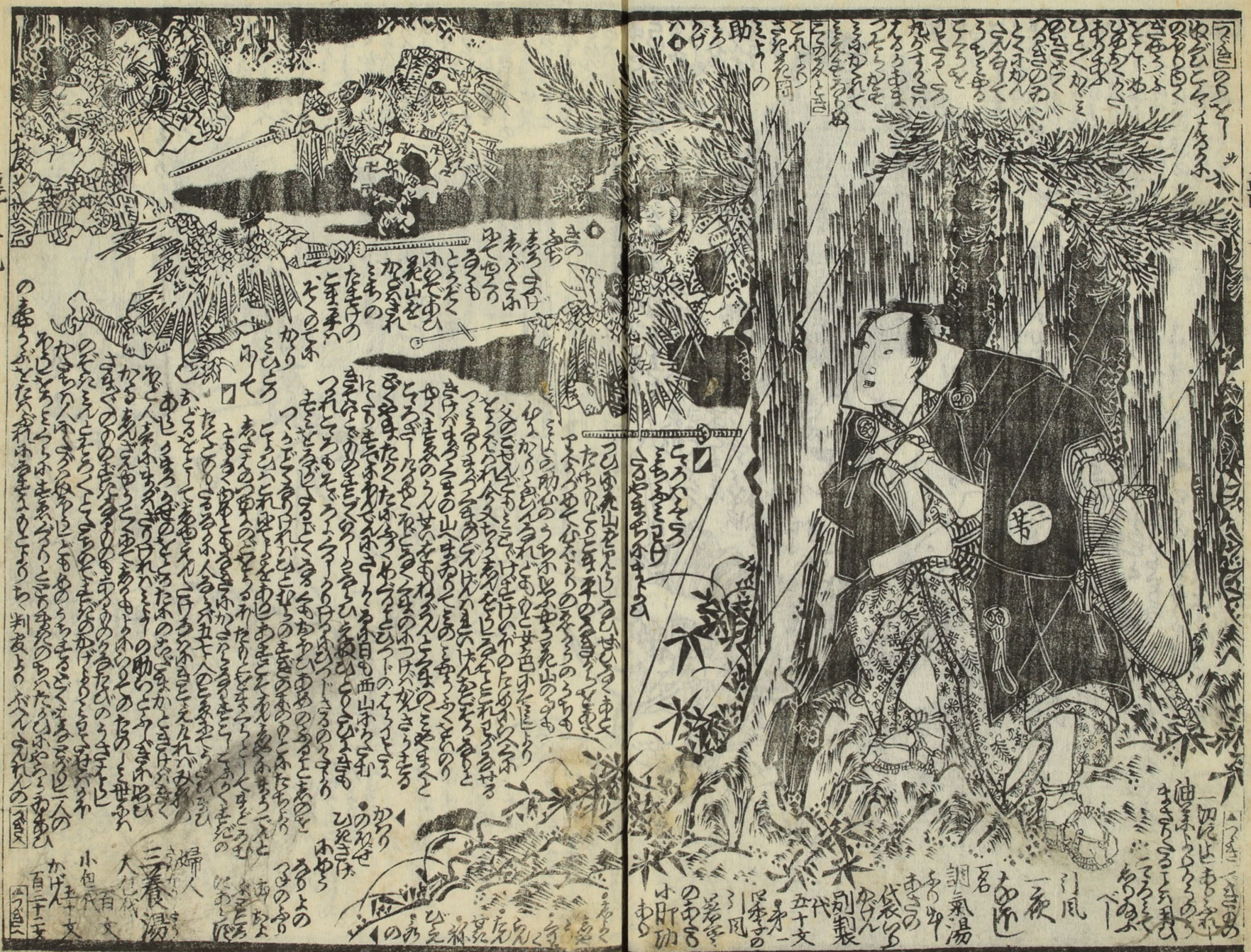
三浦龍丸正辰
大江の息女千里姫
牛窪九郎武行

富
貴

龍

龍
富
女の神
天の神

○式亭正舗製
小児金陽丸
仙得人参
民効油


第三
一切に出まいる
油まんじゅう
きさらぎ
二てうとう
名
調氣湯
一夜
引風
代
五十文
別製
代
五十文
一
小助功
婦人
三養湯
大仁丹
百文
小包代
かげん
五十文
百二十二文

他家一類制製法
伊吹山九年晒
御藥そぐさ
千袋入 四十文
五百袋入 二十文
あらかじめ手紙にて馬
丈とゆきの御用
仕本美上ひ

仕本美上ひ

嘉永四辛亥歳正月新刻目録

龍王太郎英雄譚 九編 十編 十一編 一陽齋豊國画 式亭小三馬作

花旬梅春風 小三馬作 國輝画

茅案武者鏡 種員作 國政画

敵討栗迺伊賀越 初編ヨリ五編マデ 一華文子士英壽作 一雄齋國輝画

東錦繪地本卸 通油町 藤岡屋慶次郎

豐國画

龍王太郎第九編

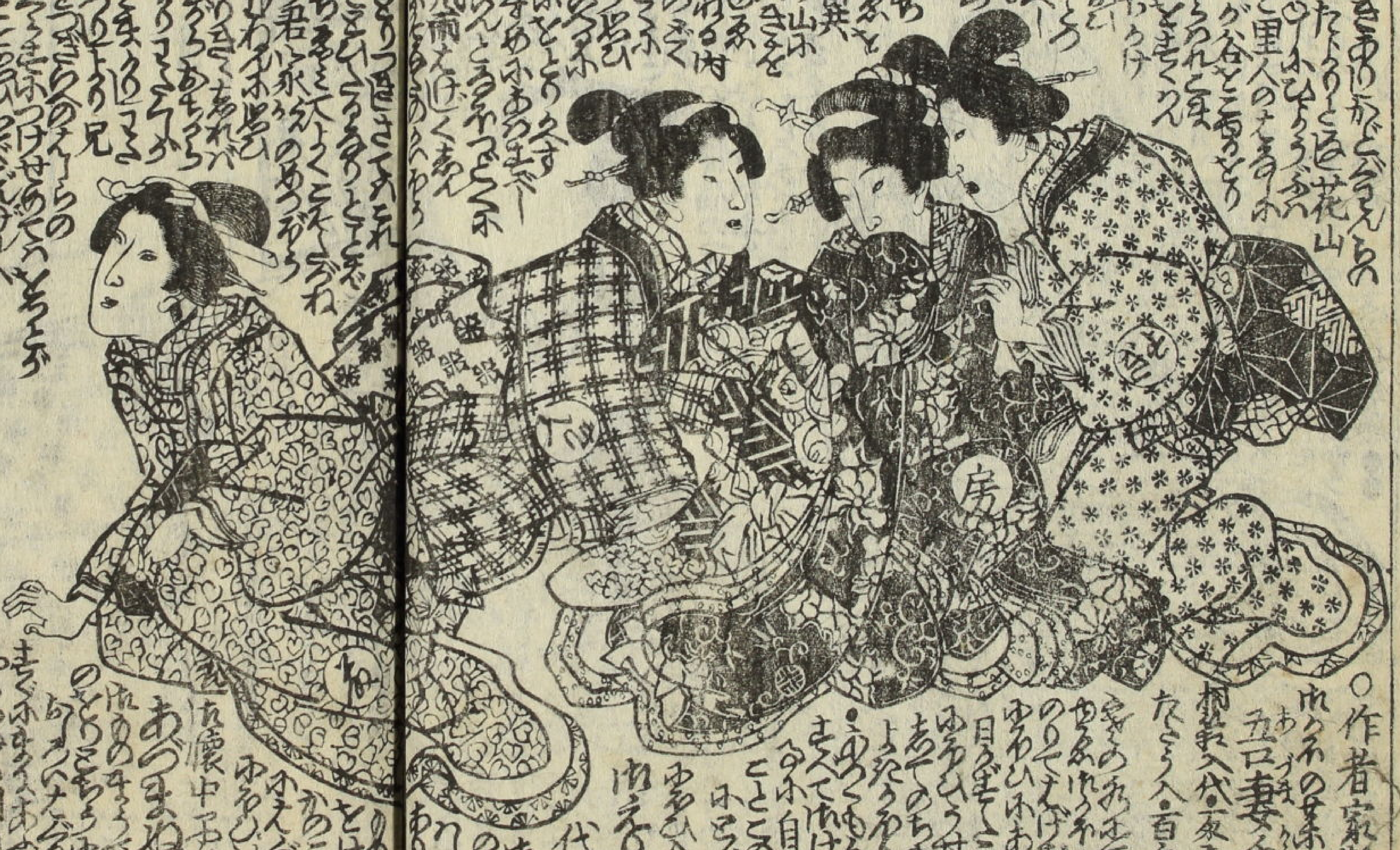
福藤慶梓

下

武亭小三馬作
香蝶樓豊國画
龍王太郎第九編
全側油江と手書
上屋敷藤町ヲ臣手書
次岡田海表書
下之巻

（つゞき）いさゝかのつみあつてせいすくごんきあいかど[illegible]ちゝうきふうきのぞ[illegible]とき[illegible]たよりと[illegible]花山[illegible]里人の[illegible]

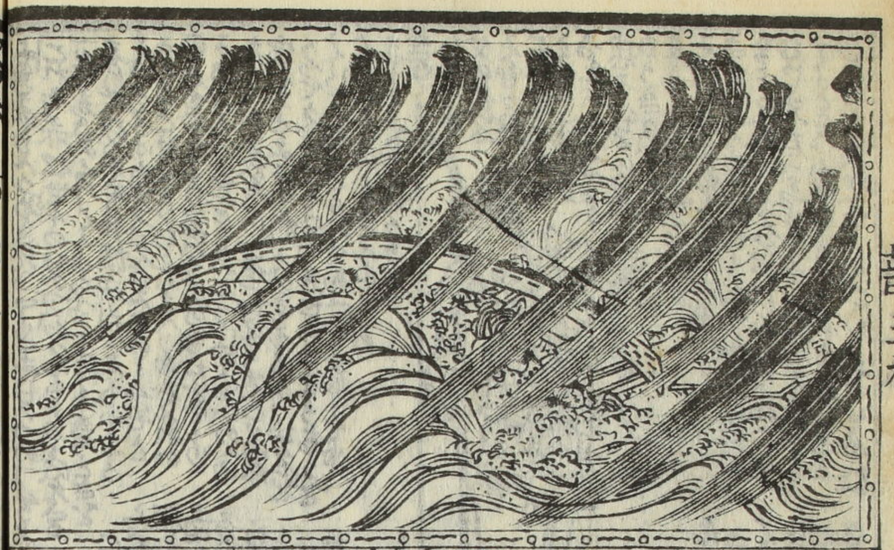
[illegible]花山の[illegible]鬼神仙[illegible]魔封[illegible]天下の[illegible]山に[illegible]日本天下の[illegible]風雨[illegible]

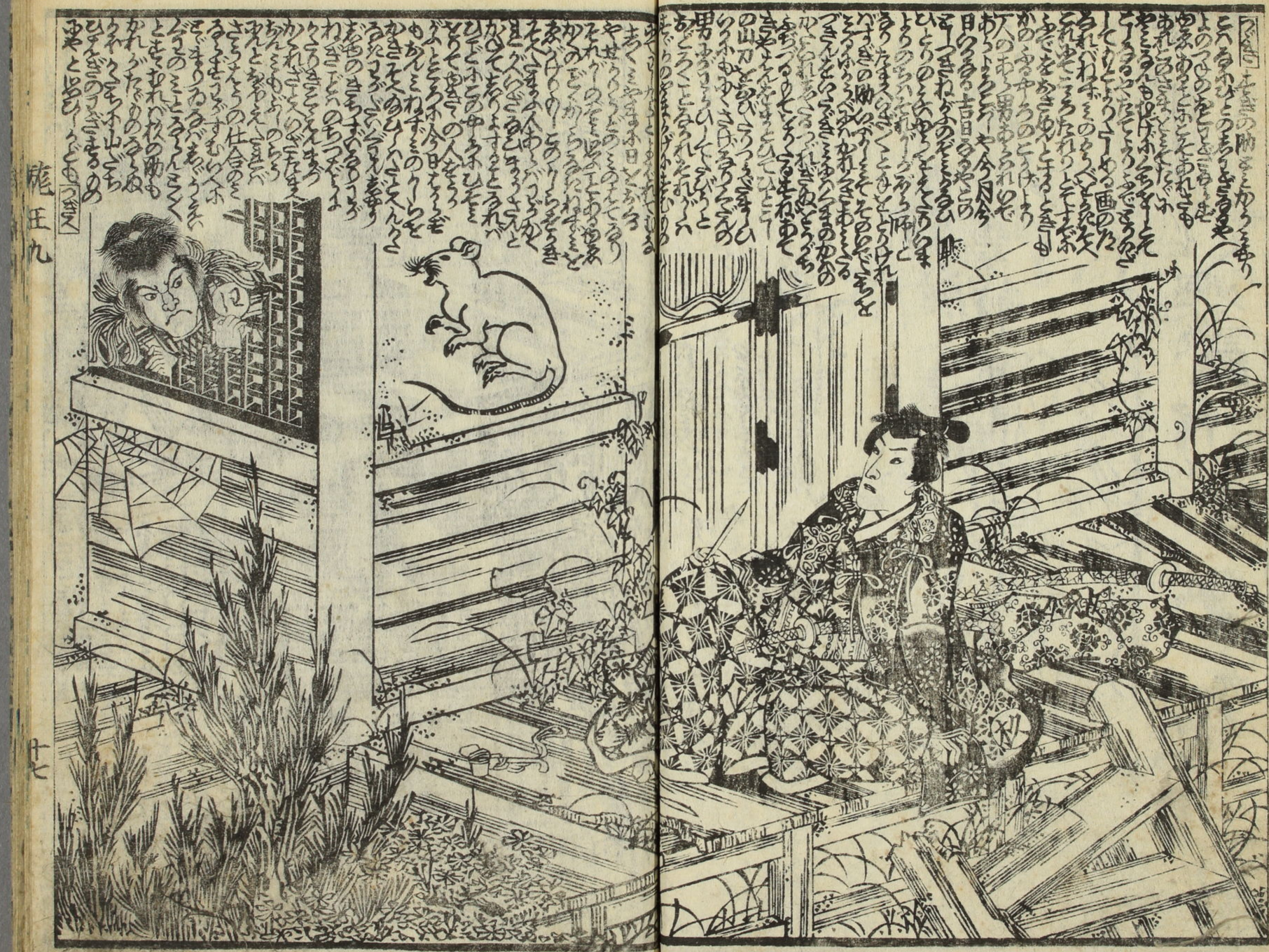


○作者[illegible]
五七妻[illegible]
[illegible]

[illegible]花山[illegible]母[illegible]君[illegible]心中[illegible]（つぎへ）

[illegible]代百[illegible]文
[illegible]代五十文
[illegible]代百六十四文
（つぎへ）





〔つゞき〕天地をさゝゆるとあさゆる
わざこのおてくざうきさとたち
まちがゐそのとき世平記みて
これをうけとりてそのまゝを
かくすあがりはたけくり
つまこのてきんさあふさて
まゐるべわれまこの用たち
まそてきうそのそうそれと
をうむ翁のかれと
の身ひらかれてさらの
らきのひをうすす
そのさてえふも
おそろふたらね
わどのえてきき
をうてとのさこと
えまし金かゝ
そ狼藉

てミづからのこて
きんぐをあつめ
うちたてるよそをを
きのもとのわれ
あるこてろぎしを
四海のうちわちゆる
へぇとてなさるとど
きうするけれ
かうをとえぬ小
ぞくだちつさほしく
とあきてそてきえ
ゆうおがそえさ
きんきのゆきどれ
あ道のほとめでたか
べーまつのひさけまて
めきうさんとそるふづかり
のたるえひらきかすぐの
さんぶつをうせきまてそう
るうべて高えをぞ
ゆよろけりまつあちづく
をあくさわ主人とひとあるの
ゆちのうるぞころかあや叶き
のたゞけどうかろうふんもの
ゆあうらとうろうろ
のあるとらくさねと
ろくつを亀きてあうらの
こうかなひろるあうを
えうをさり主人とあり
けまべまきの助へあち
こちとこまうてあろる
べき者すぐえうきとりて
きうふーちえりのは右衛門へ
さく敗ぎまそくのちあちう
ぞくやとあうそうけれバすて
らぎさうく此ふうあんくる
大ねうると河めえんやせり
あらつ一九手のあとど
きうづきとめでしけるが
すでにその日もまそきあう
なけるうかおよびけるが一人の
小そく馬ひのすつりとたち
まわりさまそこで 〔つゞく〕

香蝶樓豐國画　式亭小三馬作

嘉永四辛亥春新刻目録

七草四郎
若菜嬢子　高砂ぬひ譚　四編 五編 六編 七編　柳下亭種員作　一陽齋豐國画

繪本川中軍鑑　初編 五編　玉蘭齋擇　五雲亭貞秀画

名取草双蝶々　前編 後編　柳下亭種員作　一陽齋豐國画

牡丹園女子莊子　二編 三編 四編　笠亭仙果作　一雄齋國輝画

地本錦繪卸店　通油町　藤岡屋慶次郎梓

龍王太郎第十編

小三馬作

上

皇朝の神寶十束の御劔を初とし。十の物夏ふ貴き夏人ふ十等十可惜周室の十亂を治世の臣を挙て。大奴が孝も其中ふあり。道家の十仙い十瀟洲西湖の十景龍陽の十勝。易学十翼を本とし。漢史十志を收め。孔門の十哲釋氏の十大弟子醫家ふ東垣十書王義之が十法李陽氷が十體筆札ふ趙子昂が十勿張懷權が用筆十法丹青ふい徐鉉十竹齋が画妙。詩人ふい大曆の十才子。吁江の十賢。鎌倉の十將軍。大内の十ふ士ふ名あるその中ふも。忠綱ふ声ハ十里ふ響ク。武將十哲の名目い唐世ふ起る。鳳城の十衛い采ふ始り。先陣の馬い太宗の十驥をひく。紅毛の眼鏡ふ十里ときいめ。曾端白が十友い花と託せ。されば宇治十帖の長譚。年々續の稗史も。十字ふ象る街ふ東西の番附と配る。十日の角力の甲乙を競ふが如き。十數ふ魯の大野より呉越ふ至る。當今ふ盛の戯作の流行。十日の雨の時を違ハぬ聖代の豊けき庇蔭。十文字の錦い朝十夕の鉄炮も。筒をかめさる時津風靡ふるびく艸苅童を。十社権現と崇ひる。まて貴き神のみちのくや。十府の菅流七府

日ふ向ふ。あくも心なしふ作者の長酒十日醉の飲はゞけふ遅々そろるも。きく十悪の無道もう。他の作家ハ朝掛夜討と筆の太刀風尖ふ。そろ十郎の十番斬。余ふ此作一番限十王が勧進ハ九王がため。不肖が戯作ハ披露のたゝ。唯十目所視十指所指とふ。面工を頼ふ。やらかうやら十團子と共ニまろめたる。十夜の回向ふ十行の歓喜ふ勝る。十玄談ふ十習十力十戒より。なゝ〻十軒張の飴とともふ漸々はゞけて龍王の十編十分ふ售ふ善やうふ。とふ書肆が十善ふ。韓信が計畧の十面埋伏よりも。十分賣德ふ弄。勘の謀計。ちすく。ふれ。ばらく。栄ふ。家ふ十母の眷屬昌ハ十義十常の教備ハる。ふも勧懲の一端。あれが德若ふ五萬歳まで。十本の柱のかぞへもつきぬ。敏ふ宋を十羅刹もまんりのふと。未禄十年辰太夫も賀ひやきらん十日蛭子の夫るゝで。春旦の廿日の勘定酒のさげんふ十ふと述る者ハ。本町庵二代の醉客

嘉永五年壬子新版

式亭小三馬

牛窪郡領宗武
足利直冬の霊
刀鍛冶正武
小唄
蜂兵衛
其先
園部
判太夫
家僕八平
娘於褄

三浦龍九正辰

天性英武面貌優
美兼るゝ仁慈とりわけて
衆皆人中の龍王太郎と
呼称す陸奥ゝ一城を統き
亀ヶ城と号ゝ其功最
高きゆゑ人よんで龍王城と
名り后諸英茲ゝ集會して
数多の賊臣を亡ぼ巻中第一の
俊傑あり

澁茶悪婆阿杰

任侠
野の手の
鬼三郎

つぎ　指趣得蒙神明之霊告目前知将来

足利直冬欽白

牛

荒

つゞき

つゞき [illegible]

[illegible]

○式亭正舗製 [illegible]

江戸の水 代五十文 [illegible] 代百文 [illegible] 代百五十文 [illegible] 百文

[illegible] 白粉の [illegible]

箱入 [illegible]

代 五十文

[illegible]

一包 百文

坐包 五十文

薄化粧

[illegible] 代五十文

[illegible] 百文より [illegible]

五吾妻香
相模屋代
二文五ト・二文

小三馬作
豊國画

嘉永五壬子歳正月新刻目録

龍王太郎英雄譚 十編 式亭小三馬作
土編 一陽齋豊國画

花旬梅春風 小三馬作
國輝画

茅案武者絵 種員作
國政画

敵討栗迺伊賀越 初編ヨリ五編マデ 一華文子士英壽作
一雄齋國輝画

東錦繪地本御通油問屋
藤岡屋慶次郎

豐國画
嘉永壬子春
藤慶梓
下

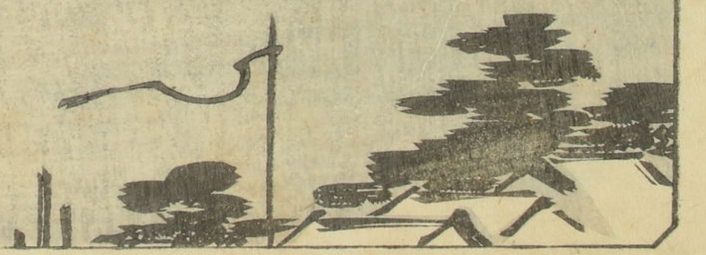
源義経英雄傳

第十編

下の巻

武蔵小二郎作

玉蝶楼豊国画



嘉永五壬子年

○作者家傳
某品
月出不変
天女丸
代百北四郎

金蛇丸
大包代百文
小包代五十文

酒の名人
酒をよくのまうむ
のうくのごとけ

龍樹散 一包代三十六文

引風一夜あり
大包百文
五十文

此画の話解
土編ふまり
松
梅

艷
美
田

○式亭正製 御薬艾

○さいき人ふとそうり和子の
ゑこ第一の臣るべーたくへ
漢をなをけーてうつ毒ちん元
蜀都ちくをひく臣忠武
侯ちうぶのかもげ
あり

七星を
ふ元帥ねとる
ふをあるせのむの大
ゑあるーこ軍
あひーうゆ井のるたけい文曲星
大毒虎松い武曲星

○作者紹系
仙洞人参
即功油
一貝代平文
半貝代廿四文
小児たの
のでるの
ぐくさ
かさの
たぐ
男女
かれの
できの
ゆ
ぐきぐ
みぐれ
えるの
うちの
ぐるの
ぎをる
ーじ
のぐれ
ぐりれ
されえ

これもこの時勢むかふまれ天の
あるむることろ人知日ちのあよ
とおやろすでふ天地一変ぶ
まることをふあるこ
あるこ微宮
きうくうく客星ぶ犯星ぶ
天度ぶとの月星ぶの
ひをそうくひ悪星
ぶくぐうそ天下ひらんを
ゑそんとす天帝ぶ
このときふあるこ
よりの神ふことのり
あるく北方のあ位を
つさぐふ七曜星ぶ
あるこのあ巨門貪狼
ぶらう緑存廉貞ぶ
文曲ぶ武曲ぶ
破軍ぶ
ぶあるそれを守護ぶ補
星ぶぶ
りのあらふあるそ
りのある軍師ぶ
ぶと下界ぶふぐーて犯客ぶ
のるるぶとまるそ
おるれぶのやくもげへぐるて
七るう星のんぐるをまるつ大ぶの
ぬーまるいちとれるりかの人こ
ちるうぐれどきのあてるりひるく

丸の光武帝ふ
ふ入い孔明ぶんうてるい
ふひこーその余の四星
のちおのづるう
みるとれろ
をとれろ
みるのへ
ゆるべれ
さるー日
ゑりきを
えるどく
るるるるち
るもたくひ
ゑるるを
ゑ人のるう
けるをけるを
ゆ一城のあ
るるるるる天下ふ
ぎるるるるるの
のるれをひるん
そのるるるるる
あひあるく天機ぶ
るあやるるるる
さるびくるのるる
らをるるるーる
るびるるたまへ

ようてるを
ふ用ひるる
まるべー
小児
百日
甘き
の
奇
菓
代
夏
あやくの
黒
代平文
るるれと
るるるる
るるるる
るるーあり
るるるる
るるるる

一陽齋豐國画　式亭小三馬作

小兒出一切の物忌　青龍圓
代六十匹文

價目下。雪の友金一百疋
。月の眺。花の宴
金百五十疋金二百疋

蘭奢袋

嘉永五壬子春新刻目録

七世四郎
若木嬢子　あらたぬひ譚　七編八九十十一十二編追　柳下亭種員作　一陽齋豐國画

繪本川中軍鑑　初編五編　玉蘭齋　五雲亭貞秀画

木下影真砂模繪　全部三編續　藤本吐致埴詞　一壽齋國妥画　一陽齋豐國繪

牡丹園女子莊子　三編四編五編　笠亭仙果作　一壽齋國妥画

地本錦繪卸店　通油町　藤岡屋慶次郎梓

龍王筆編